

2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 5月 6日

所属・職名	サービス創造学部教授	氏名	石井 泰幸
研究課題	場の理論から見た地域情報ネットワークの現状と展開		
研究キーワード	地域情報、中小企業、AI化	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>2019年度の私の研究は、地域の中小企業のネットワーク化が経営強化に結びつくものであるかを論じるものであった。実際、地域情報は地域活性に依拠する土建的性格をもつものとして推進されたものである。しかし、バブル崩壊や我が国の財政の悪化などにより、地域経済はその余波を受け、その地域に依拠する企業は常に厳しい環境に置かれてきた。そこで、地域情報の認識が改めて問い直され、特に2000年以降のインターネット時代を皮切りにインターネットに依拠した情報システムを主体的・自律的に構築することに成功した中小企業が大きく成長した。だが、その一方で情報化の波に乗れず、倒産に追い込まれていった地域の中小企業も決して少なくなかった。実際、大企業が情報システムを刷新しながら企業成長を遂げたのは、その情報化を吸収できる企業体質にあった。ところが、地域における中小企業は情報システムが経営強化ではなく、かえって自らの重荷になっていたものであった。</p> <p>以上より、現在のように、AI化が進行し、情報ツールが精鋭化する中でこの現象を俯瞰して見ると、情報システムの捉え方を人との関係に置き換えることができなかつた点が顕在化してくる。つまり、コンピュータによる情報システムは無機的システムであり、そのシステムに従業員や取引企業と連動させていく有機的システムの考え方が必要なのである。これは、情報システムがネットワーク化できるかといった問いに対する応答の可能性であり、だからこそ、私はこれまでの研究でバーナードに依拠し、ヘンダーソンによるシステム論の考え方から情報ネットワークの端緒を導き出そうと試みたのである。それが、実際に、組織が織りなす人と組織との同時的発展を示す協働システムとして企業に顕在化し、地域情報の持つ限界を突破するものになると私はこれまで研究を重ねてきた。この研究は、現在も進行しており、2020年度は場の理論に依拠し、地域と大企業との連関を考え、地域という視点からそれを包含する情報ネットワークに研究テーマを移行した。今後もこの研究を深化させていく予定である。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【基調講演】「研究への深化とその可能性」日本産業経済学会第16回全国大会、2019年9月12日</p> <p>3. 主な経費</p> <p>上記の研究成果を得るために、書籍を中心に経費を使用した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本経営行動研究学会理事 ・日本産業経済学会常任理事 <p style="text-align: right;">(本文は1ページ以内にまとめること)</p>			